

2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年8月7日
東

上場会社名 デンカ株式会社 上場取引所
 コード番号 4061 URL http://www.denka.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)山本 学
 問合せ先責任者 (役職名)IR室長 (氏名)大町 徹夫 (TEL)03(5290)5532
 四半期報告書提出予定日 2019年8月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	90,884	△3.3	6,747	△2.7	6,367	△20.5	5,018	△19.4
2019年3月期第1四半期	93,969	3.7	6,931	7.8	8,008	8.4	6,228	3.1

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 4,011百万円 (△18.6%) 2019年3月期第1四半期 4,926百万円 (△6.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	57.75	—
2019年3月期第1四半期	71.07	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	482,193	248,755	50.8
2019年3月期	483,827	250,481	51.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期245,054百万円 2019年3月期246,861百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	60.00	—	60.00	120.00
2020年3月期	—				
2020年3月期(予想)		60.00	—	65.00	125.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	195,000	△1.7	15,000	2.7	14,000	△6.5	10,500	△7.8	120.76
通期	415,000	0.5	38,000	11.0	36,000	9.7	27,000	7.8	310.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、(添付資料) 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期1Q	88,555,840株	2019年3月期	88,555,840株
2020年3月期1Q	1,739,541株	2019年3月期	1,607,082株
2020年3月期1Q	86,904,391	2019年3月期1Q	87,634,514株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動あった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9
3. 補足情報	11
2019年度 第1四半期決算概要	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、個人消費は持ち直しましたが、輸出や生産に弱さがみられるなど、力強さに欠ける動きとなりました。また、世界経済は、全体としては緩やかな回復基調が続きましたが、米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題の長期化により、先行きに対する懸念が一層高まりました。

このような経済環境のもと、当社グループは、企業理念“The Denka Value”を実現すべく、経営計画「Denka Value-Up」の3つの成長ビジョン「スペシャリティーの融合帯」「持続的成長」「健全な成長」にもとづき、2つの成長戦略である「事業ポートフォリオの変革」と「革新的プロセスの導入」を推進し、業容の拡大と収益の確保に注力いたしました。

そうした中で、当第1四半期連結累計期間は、採算是正を目的とした販売価格の改定が進んだ一方で、一部の製品では原材料価格の下落に応じた販売価格の見直しや需要減による販売数量の減少がありました。この結果、売上高は908億84百万円と前年同期に比べ30億84百万円(3.3%)の減収となりました。利益面では、営業利益は67億47百万円(前年同期比1億83百万円減、2.7%減益)、経常利益は63億67百万円(前年同期比16億40百万円減、20.5%減益)、親会社株主に帰属する四半期純利益は50億18百万円(前年同期比12億9百万円減、19.4%減益)となりました。

＜エラストマー・機能樹脂部門＞

当部門の売上高は393億88百万円と前年同期に比べ31億61百万円(7.4%)の減収となりました。

スチレンモノマーやデンカシンガポール社のポリスチレン樹脂およびMS樹脂の販売は堅調に推移しましたが、原材料価格の下落に応じた販売価格の見直しを行ったことから減収となりました。また、クロロプレングムの販売数量は前年を下回りました。

＜インフラ・ソーシャルソリューション部門＞

当部門の売上高は128億83百万円と前年同期に比べ7億21百万円(5.9%)の増収となりました。

特殊混和材は出荷増および価格改定により増収となり、農業・土木用途向けのコルゲート管は概ね堅調となりました。一方、セメントや耐火物・鉄鋼用材料の販売は前年を下回りました。

＜電子・先端プロダクツ部門＞

当部門の売上高は155億7百万円と前年同期に比べ53百万円(0.3%)の減収となりました。

球状アルミナや高純度導電性カーボンブラックの販売は好調に推移し、電子回路基板および高信頼性放熱プレート“アルシンク”、LED用サイアロン蛍光体“アロンブライト”の販売は堅調に推移しました。一方、電子部品・半導体搬送用部材の機能フィルムや半導体封止材向け球状溶融シリカフィラーの販売は前年を下回りました。

＜生活・環境プロダクツ部門＞

当部門の売上高は88億29百万円と前年同期に比べ8億91百万円(9.2%)の減収となりました。

プラスチック雨どいおよび工業用テープの販売は概ね前年同期並となりましたが、合繊かつら用原糸“トヨカロン”や食品包材用シートおよびデンカポリマー株式会社の加工品の販売は前年を下回りました。

＜ライフイノベーション部門＞

当部門の売上高は51億36百万円と前年同期に比べ3億60百万円(7.6%)の増収となりました。

デンカ生研株式会社の試薬は国内、輸出とも販売数量が増加し増収となりました。

＜その他部門＞

当部門の売上高は91億38百万円と前年同期に比べ60百万円(0.7%)の減収となりました。

株式会社アクロス商事等の商社は取扱量が前年を下回りました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ16億34百万円減少の4,821億93百万円となりました。流動資産は、売上債権の減少などにより前連結会計年度末に比べ2億92百万円減少の1,904億37百万円となりました。固定資産は、投資有価証券の評価額の減少などにより前連結会計年度末に比べ13億41百万円減少の2,917億56百万円となりました。

負債は、有利子負債の増加などにより前連結会計年度末に比べ92百万円増加の2,334億38百万円となりました。

非支配株主持分を含めた純資産は前連結会計年度末に比べ17億26百万円減少して2,487億55百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の51.0%から50.8%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間の連結業績予想および通期の連結業績予想につきましては、2019年5月13日に公表した予想数値から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,902	17,052
受取手形及び売掛金	95,780	88,376
商品及び製品	47,455	50,344
仕掛品	4,389	6,346
原材料及び貯蔵品	19,911	19,780
その他	9,802	9,025
貸倒引当金	△511	△488
流動資産合計	190,730	190,437
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	62,393	61,918
機械装置及び運搬具（純額）	71,155	70,065
工具、器具及び備品（純額）	3,820	3,714
土地	63,366	63,380
リース資産（純額）	307	1,865
建設仮勘定	17,634	18,988
有形固定資産合計	218,677	219,933
無形固定資産		
のれん	8,312	8,059
特許権	250	537
ソフトウェア	978	946
その他	2,874	2,862
無形固定資産合計	12,415	12,405
投資その他の資産		
投資有価証券	55,028	52,441
長期貸付金	236	236
繰延税金資産	2,736	2,827
その他	4,122	4,035
貸倒引当金	△118	△124
投資その他の資産合計	62,004	59,417
固定資産合計	293,097	291,756
資産合計	483,827	482,193

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	52,924	47,834
短期借入金	43,101	43,758
コマーシャル・ペーパー	2,000	5,000
1年内返済予定の長期借入金	5,062	5,047
1年内償還予定の社債	5,000	5,000
未払法人税等	3,010	1,657
未払消費税等	487	550
賞与引当金	3,122	5,718
その他	39,338	38,386
流動負債合計	154,047	152,953
固定負債		
社債	22,000	22,000
長期借入金	34,969	34,970
繰延税金負債	4,961	4,079
再評価に係る繰延税金負債	8,403	8,403
退職給付に係る負債	7,269	7,683
株式給付引当金	44	49
その他	1,650	3,299
固定負債合計	79,298	80,484
負債合計	233,346	233,438
純資産の部		
株主資本		
資本金	36,998	36,998
資本剰余金	49,353	49,355
利益剰余金	144,638	144,349
自己株式	△5,492	△5,899
株主資本合計	225,498	224,803
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,182	14,072
繰延ヘッジ損益	△345	△459
土地再評価差額金	10,260	10,260
為替換算調整勘定	△120	△126
退職給付に係る調整累計額	△3,614	△3,495
その他の包括利益累計額合計	21,362	20,251
非支配株主持分	3,620	3,700
純資産合計	250,481	248,755
負債純資産合計	483,827	482,193

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	93,969	90,884
売上原価	70,393	67,649
売上総利益	23,575	23,235
販売費及び一般管理費	16,644	16,487
営業利益	6,931	6,747
営業外収益		
受取利息	18	18
受取配当金	1,645	711
持分法による投資利益	128	66
為替差益	465	—
その他	85	168
営業外収益合計	2,343	964
営業外費用		
支払利息	171	217
為替差損	—	259
固定資産処分損	115	275
操業休止等経費	366	260
その他	614	332
営業外費用合計	1,266	1,345
経常利益	8,008	6,367
特別損失		
災害による損失	117	—
特別損失合計	117	—
税金等調整前四半期純利益	7,890	6,367
法人税等	1,626	1,252
四半期純利益	6,264	5,115
非支配株主に帰属する四半期純利益	36	96
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,228	5,018

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	6,264	5,115
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,136	△1,032
為替換算調整勘定	△2,566	3
退職給付に係る調整額	103	118
持分法適用会社に対する持分相当額	△10	△192
その他の包括利益合計	△1,337	△1,104
四半期包括利益	4,926	4,011
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,035	3,907
非支配株主に係る四半期包括利益	△108	103

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

国際財務報告基準を適用している子会社は、当第1四半期連結会計期間より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。IFRS第16号の適用については、経過的な取扱いに従っており、会計方針の変更による累積的影響額を当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に計上しております。この結果、当第1四半期連結会計期間末の有形固定資産の「リース資産(純額)」が1,555百万円増加し、流動負債の「その他」が233百万円及び固定負債の「その他」が1,627百万円増加しております。当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高は306百万円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 事業 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	エラス トマ ー・機 能樹脂	インフ ラ・ソ ーシャ ルソリ ューシ ョン	電子・ 先端プ ロダク ツ	生活・ 環境プ ロダク ツ	ライフ イノベ ーショ ン	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	42,550	12,161	15,561	9,720	4,776	84,770	9,198	93,969	—	93,969
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	0	0	—	—	—	0	1,652	1,652	△1,652	—
計	42,550	12,161	15,561	9,720	4,776	84,770	10,851	95,622	△1,652	93,969
セグメント利益 又は損失(△)	4,385	△221	2,669	62	△200	6,695	285	6,980	△49	6,931

(注) 1. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プラントエンジニアリング事業、商社事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△49百万円は、セグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 地域ごとの売上高に関する情報

(単位：百万円)

	日本	海外			合計
		アジア	その他	計	
売上高	52,014	27,324	14,630	41,954	93,969
連結売上高に占める割合 (%)	55.4	29.1	15.6	44.6	100.0

(注) 売上高は顧客の所在地を基盤とし、国又は地域に分類しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 事業 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	エラス トマ ー・機 能樹脂	インフ ラ・ソ ーシャ ルソリ ューシ ョン	電子・ 先端プ ロダク ツ	生活・ 環境プ ロダク ツ	ライフ イノー ベーシ ョン	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	39,388	12,883	15,507	8,829	5,136	81,746	9,138	90,884	—	90,884
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	23	—	—	—	23	1,846	1,869	△1,869	—
計	39,388	12,907	15,507	8,829	5,136	81,769	10,984	92,754	△1,869	90,884
セグメント利益 又は損失(△)	3,811	255	2,597	△184	78	6,558	181	6,739	8	6,747

(注) 1. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プラントエンジニアリング事業、商社事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額8百万円は、セグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 地域ごとの売上高に関する情報

(単位：百万円)

	日本	海外			合計
		アジア	その他	計	
売上高	51,142	26,265	13,477	39,742	90,884
連結売上高に占める割合 (%)	56.3	28.9	14.8	43.7	100.0

(注) 売上高は顧客の所在地を基盤とし、国又は地域に分類しております。

2019年度 第1四半期決算概要

2019年8月7日
デンカ株式会社

(単位:億円)

1. 業績

	2019年度 第1四半期実績 (4-6月)	2018年度 第1四半期実績 (4-6月)	増 減	2019年度 第2四半期予想 (4-9月)	2019年 通期予想 (4-3月)
売上高	909	940	△ 31	1,950	4,150
営業利益	67	69	△ 2	150	380
経常利益	64	80	△ 16	140	360
親会社株主に帰属する当期純利益	50	62	△ 12	105	270

2. 総括(前年同期比)

- ・当社グループは、企業理念“*The Denka Value*”を実現すべく、昨年度より5か年の新経営計画「*Denka Value-Up*」をスタートしました。その3つの成長ビジョン「*スペシャリティの融合体*」「*持続的成長*」「*健全な成長*」にもとづき、2つの成長戦略「*事業ポートフォリオの変革*」と「*革新的プロセスの導入*」を推進し、業容の拡大と収益向上に注力しております。
- ・第1四半期は、球状アルミナ、セラミックス回路基板、アセチレンブラックなど車両電動化関連製品の販売が好調に推移しましたが、原材料価格の下落に応じた販売価格の改定や、クロロブレンゴムや電子部品・半導体搬送用部材の高機能フィルム、半導体封止材向け溶融シリカファイラーの販売数量が減少したことなどにより、売上高は前年に比べて31億円の減収の909億円(前年比3.3%減)となりました。利益面では、営業利益は前年に比べて2億円減益の67億円となりました(前年比2.7%減)。経常利益は64億円(前年比20.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は50億円(前年比19.4%減)と、それぞれ減益となりました。
- ・第2四半期以降、世界経済の先行きは不透明感を増しておりますが、車両電動化関連製品の好調が続く見通しであり、これにインフルエンザワクチンや診断キットの収益寄与が加わることなどから、通期予想営業利益380億円達成による3期連続最高益更新を目指します。

3. 参考数値・前提

(単位:億円)

	2019年度 第1四半期実績	2018年度 第1四半期実績	増 減	2019年度 第2四半期予想	2019年 通期予想
投資	設備投資	53	56	△ 3	220
	M & A 他	-	1	△ 1	未定
	計	53	57	△ 4	220
減価償却費	55	57	△ 2	115	240
研究開発費	35	39	△ 4	80	170
有利子負債残高	1,158	1,131	27	1,220	1,200

	2019年度 第1四半期実績	2018年度 第1四半期実績
為替レート [円/\$]	110.8	108.1
国産ナフサ [円/k]	45,800	49,000

4.セグメント別状況(前年同期比)

- ・エラストマー・機能樹脂部門は、クロロブレンゴムの価格改定が進み、デンカシンガポール社のスチレン系樹脂のスプレッドが改善しましたが、クロロブレンゴムや透明樹脂などの販売数量が減少したことなどから、減益となりました。
 当第2四半期はスチレンモノマープラントの非定修年であることなどから、第2四半期累計では前年比増益の見通しです。
- ・インフラ・ソーシャルソリューション部門は、各製品の価格改定が進んだことなどにより増益となりました。
 第2四半期累計は、特殊混和材などの堅調な販売が続くとともに、引き続き価格改定による採算是正に努めることで前年比増益の見通しです。
- ・電子・先端プロダクツ部門は、球状アルミナ、セラミックス回路基板、アセチレンブラックなど車両電動化関連製品の販売数量が伸長しましたが、これらに対応した生産体制の強化に伴い固定費が増加したことに加え、電子部品・半導体搬送用部材の高機能フィルムや半導体封止材向け溶融シリカファイバーの販売が前年を下回ったことなどから減益となりました。
 第2四半期も同じような状況が続く見通しであることから、第2四半期累計も前年比減益の見通しです。
- ・生活・環境プロダクツ部門は、プラスチック雨どいおよび工業用テープの販売は概ね前年同期並みとなりましたが、合繊かつら用原糸”トヨカロン”や、食品包材用シートおよびその加工品などの販売が前年を下回り、営業利益は赤字となりました。
 第2四半期は、採算是正や販売拡大を進めることなどで、収益回復に努めます。
- ・ライフイノベーション部門は、デンカ生研株式会社の検査試薬の販売が国内、輸出とも前年を上回り、増益となりました。
 第2四半期累計も、前年比増益の見通しです。

(単位:億円)

連結売上高・営業利益(実績・予想)		2019年度 第1四半期実績	2018年度 第1四半期実績	増 減	2019年度 第2四半期予想	2019年 通期予想
エラストマー・ 機能樹脂	売上高	394	426	△ 32	810	1,650
	営業利益	38	44	△ 6	80	155
インフラ・ソーシャル ソリューション	売上高	129	122	7	280	580
	営業利益	3	△ 2	5	5	10
電子・先端 プロダクツ	売上高	155	156	△ 1	340	740
	営業利益	26	27	△ 1	50	130
生活・環境 プロダクツ	売上高	88	97	△ 9	200	400
	営業利益	△ 2	1	△ 2	5	10
ライフ イノベーション	売上高	51	48	4	130	360
	営業利益	1	△ 2	3	5	65
その他 消去差	売上高	91	92	△ 1	190	420
	営業利益	2	2	△ 0	5	10
合 計	売上高	909	940	△ 31	1,950	4,150
	営業利益	67	69	△ 2	150	380

連結売上高増減	売 上 高				
	2019年度 第1四半期実績	2018年度 第1四半期実績	増 減	販売価格差	数量差
エラストマー・機能樹脂	394	426	△ 32	△ 22	△ 9
インフラ・ソーシャルソリューション	129	122	7	7	△ 0
電子・先端プロダクツ	155	156	△ 1	1	△ 2
生活・環境プロダクツ	88	97	△ 9	2	△ 11
ライフイノベーション	51	48	4	△ 1	5
その他	91	92	△ 1	-	△ 1
合 計	909	940	△ 31	△ 13	△ 18

連結営業利益増減	営 業 利 益					
	2019年度 第1四半期実績	2018年度 第1四半期実績	増 減	販売価格差	数量差	コスト差等
エラストマー・機能樹脂	38	44	△ 6	△ 22	△ 13	29
インフラ・ソーシャルソリューション	3	△ 2	5	7	△ 0	△ 2
電子・先端プロダクツ	26	27	△ 1	1	1	△ 3
生活・環境プロダクツ	△ 2	1	△ 2	2	△ 5	0
ライフイノベーション	1	△ 2	3	△ 1	3	1
その他、消去差	2	2	△ 0	-	0	△ 0
合 計	67	69	△ 2	△ 13	△ 14	24